



THE ROTARY CLUB OF KUSHIRO WEST 2011~2012(平成 23 年~24 年)

釧路西ロータリークラブ会報

創立 昭和 45(1970)年 6 月 8 日 承認 昭和 45(1970)年 6 月 10 日



2011~2012 RI テーマ 「地域社会にロータリーを活かそう!!」

《本日のプログラム》11 月 21 日 12:30

普通例会

ゲスト卓話

《次回のプログラム》11 月 28 日 18:00

夜間例会

クラブフォーラム

《例会日:毎週月曜日 12:30~13:30》

《例会場:釧路全日空ホテル 釧路市錦町 3-7》

会長 加納 則好 幹事 小泉 和史

■クラブ事務所■

釧路市幸町14丁目1-1 ノースコートサンスイ2F

TEL(0154)23-6175 FAX(0154)23-6123

2011 年 11 月 21 日(月) 第 17 回 通算 1942 回

【点鐘】 加納会長

【ロータリーソング斉唱】 「それでこそロータリー」 ソングリーダー: 櫻田 会員



【お客様紹介】 加納会長



まず、元・南ロータリークラブパスト会長、現在は日本ロータリーEクラブ 2650 正会員花田善廣君です。花田さんと私は中学校の同級生です。続いて、今日のメインプログラムの講師お二人をご紹介します。災害支援釧路ネットワークボランティア隊隊長山本真吾様、同じく調査隊員の吉田敦子様です。吉田様は吉田ガバナール補佐の奥様でございます。ひとつ今日はよろしく

お願いいたします。

【会長挨拶】 加納会長



皆さんこんにちは。まず報告が 1 点あります。先週の土曜日 11 月 19 日に、白糠のやまかんで、会長・幹事会が行われ小泉幹事と出席して参りました。駅前のホテルロイヤルインからバスにて出発し、終了後にバスで末広に戻って参りました。バスで白糠を往復したのは初めてだったので妙な気分でした。

今日の例会は、災害支援くしろネットワークの吉田敦子様、同じく山本真吾様をお迎えしてのゲスト卓話でございます。今年度の会長方針に書かせていただきましたが、「震災直後の被災地の方々にはもとより、国民の静かな秩序と威厳には圧倒され胸を強く打たれます。日本的伝統の DNA は依然として日本国民の血の中で流れている。そこに誇る

べき助け合いの精神、強調精神を失わない・共同体の絆があります。」確か 5 月の連休に原稿を書いたと記憶しておりますが、3.11 から 8 か月が過ぎました。以降テレビや新聞などで生々しい情報がこれでもか、これでもかと迫って参ります。しかし身近に実際にボランティアで被災地へ行かれ、活動された方の話を聞くのは、私は初めてでございます。決して風化することのない現状を、改めて認識しなければなりません。被災地の人々に一歩でも前に進む、勇気と希望を与えてくださった、吉田さん山本さんはじめ、災害支援ネットワークの活動に心から敬意を表しまして会長挨拶とさせていただきます。

【幹事報告】 小泉幹事



- ・ 釧路市共同募金委員会様から、赤い羽根共同募金および歳末助け合い運動の協力案内が届いております。
- ・ 近隣クラブから会報とプログラムが届いております。

【お客様ご挨拶】 日本ロータリーEクラブ 花田 善廣様



西ロータリークラブの皆さんこんにちは。RI2650 地区日本ロータリーEクラブの花田でございます。昨年 12 月に釧路南ロータリークラブを退会いたしました。14 年間ロータリークラブに在籍しておりましたが、家族も認める私の趣味でしたのでロータリーを辞めてからはかなり寂しい思いをしておりました。

加納君が会長になってから会いに行きたいとずっと思っておりました。今年の 7 月に日本でたった 2 つなんです、Eクラブが承認されました。最初は和歌山の方でロータリーEクラブ・サンライズオブジャパン 2640 地区に日本で第一号の Eクラブができました。私が入らせていただいた Eクラブは、京都と奈良と福井と滋賀の 4 つの県にまたがる 2650 地区です。4 つの各クラブがホストクラブとなりまして、Eクラブを設立してくださいました。退会した後どこかのクラブに入りたいと思っておりました。札幌のクラブも考えましたが、中標津ロータリークラブの笹谷さんが、Eクラブができたのでホームページを見てごらん。と連絡をくれましたので見てみると、会員募集とありまして 8 月になりましてから入会申込書を書いて、笹谷先生に推薦書をいただき、2650 地区日本ロータリーEクラブの会員となることができました。

Eクラブはインターネットの中で例会を行っております。毎週例会があります。月曜日の昼 12 時から次の週の月曜日午前 11 時 59 分まで、いつでも家にいながらにしてパソコンを前にして例会に出席いたします。会長幹事が動画で話をします。その週のプログラムにあわせてコメントを出すと例会出席扱いとなります。本日皆さんにお持ちしました資料の最終ページに私どものサイトのアドレスが載っております。大変きれいにできたホームページですので、是非見てください。インターネットでメイキャップもできるようになっておりますので、つないで下さい。中身は設問形式になっておりますので、それに対しコメントを書いてメイキャップ料 500 円をクレジットカードで支払いいただきメイキャップとなります。ニコニコ献金もすべてインターネットで行います。

今全クラブ員は 44 名のうち 26 名がロータリーの経験のない新会員です。北海道は私と旭川の方の 2 名です。本日は Eクラブへのメイキャップと、ロータリークラブを続けたいがクラブが終結してしまった方などに Eクラブの会員となっていたいただきたく、宣伝を兼ねてメイキャップさせていただきました。どうもありがとうございました。

【本日のプログラム】 担当 社会奉仕

●ゲスト卓話

ゲストプロフィール紹介 社会奉仕委員会 佐藤和彦委員長



○ 災害支援くしろネットワーク

第3次調査隊員 吉田 敦子 様

(株)セントラルビルサービス専務取締役として、仕事に従事するかたわら、女性の奉仕団体に15年間所属し、国内外へ向けた様々な奉仕活動を展開していらっしゃいます。また、文化活動への支援も多く、釧路を明るく元気にする活動として現在「釧路での海外オーケストラを招請しての、キエフ国立フィルハーモニー交響楽団釧路公演」の主催者事務局として活躍中です。本年5月4日から5月8日まで、災害支援くしろネットワーク第3次視察団として現地に行かれています。

○ 災害支援くしろネットワーク

第3次調査隊員、第9次ボランティア隊隊長 山本 真吾 様

釧路市立東雲小学校教諭

災害支援くしろネットワーク第3次調査隊員(5月)、第9次ボランティア隊(7月)隊長として被災地に行かれています。民間教育団体 TOSS 釧路根室支部代表、NPO 法人まちづくり教育協働企画エトセトラ理事をなさっています。それではよろしくお願ひ致します。

《 吉田様 》

〈 被災地の写真映像視聴 〉



ただ今見ていただいた映像は、5月に現地へ行ったときの写真を元に編集し、さらに本日のために6分間に編集したものです。最初に災害支援くしろネットワークというものを少しかだけ説明させていただきます。3月にこの震災を聞き、地元の有志の方が釧路は地震の多い地区であり、これまで全国各地から助けていただいた御礼をとということで立ち上げ、釧路地区から若い人を含め、上は65歳までの有志ボランティアを被災地に送ろうということで、10月末までに174名送ることができました。総事業費で1100万円かかりましたが、地元の皆さんの温かいご支援の奉仕から賄うことができました。まだまだこの災害支援くしろネットワークは活動を続けていくつもりですので今後とも温かいご支援をお願いいたします。釧路からボランティアで被災地に行かれる方の交通費をくしろネットワークが負担いたします。交通費を負担しているのは全国でここだけで、非常に珍しいと各地から問い合わせをいただいております。

私のボランティア活動報告ですが、私が行った時は3月11日から既に2か月が経とうとしていた時でした。女性も非常に多く現地でのボランティア活動を希望しているのを聞き、現地で女性にどんな活動ができるのか、調査隊の第一陣として行ってきました。皆さんも同じだと思いますが、まだ被災地でどんなことができるのかわからない状況の頃でしたので、とにかく行ってどんな小さなことでもやろうという気持ちでした。5回列車を乗り換えて13時間かけて現地に着きました。釜石周辺に近づくにつれ急に怖い気持ちになりましたが、使命感を持って来たわけだから仲間とともにここで頑張ろうと思い直しました。掃除や避難所の食事の支度、救援物資の仕分け作業という体力的に軽いものが女性用としてありましたが、現地の瓦礫を見たときに少しでも瓦礫撤去に協力したいと思い、現地のボランティアセンターの反対を押し切って瓦礫撤去のお手伝いをしました。



.....
〈 スライド写真を見ながらの説明 〉
.....

釜石グランドホテルで瓦礫撤去作業をしていて、本当にこれを人の手で撤去できるのだろうかと思われながら進んでいると、全国各地の災害復旧に携わっているという緊急災害隊 19 名が来て一気に作業が進み、とても作業が慣れているという印象でした。釧路を含め各地にこういう組織があると良いと感じました。その後のぞみ病院にいきました。半壊状態の中なんとか病院の機能を果たそうと努力していました。

.....
〈 スライド写真を見ながらの説明 〉
.....

活動を通して自分の命は行政ではなく、自分で守るしかないという事を現地の悲惨さを見た時に思いました。ロータリーの方々は色々な意味で地域のリーダーとして活躍される方々だと思いますので、どうか自分の住んでいる地域で1日も早く緊急災害に備えての組織を構築されることを願っております。

今回のような予想できない大災害では、役所も福祉センターも何も全てパニックとなっており、全国からたくさんのボランティアが現地に押し寄せても、まとめる機関がまったくなかったため、私たちは体験した者として、この地域で何かがあったときには、率先してコーディネーターの役割を務めるよう頑張っていかなければならないと痛切に感じて参りました。ありがとうございました。

《 山本様 》

私は小学校の教員をしておりますので、今回の災害が子どもにどんな影響を与えるのかと考えました。地震・津波について怖さを語らなくても、テレビなどから伝わると思っていたのですが、全くその通りとなりました。子どもの中には心の弱い子もいるので、テレビを見ることで傷を負ってしまうかも知れない、子どもたちに希望を伝えなければならない。と思いました。何を伝えたら良いのかを考えた時に、今回の災害から絆であるとか日本人の素晴らしさというものを感じられました。そんな映像をまとめましたのでこれから見てください。

映像



- ・ツイッターからのコメント
- ・ニュースから被災地の老人のコメント
- ・甲子園での選手宣誓
- ・被災地中学校の卒業式で卒業生代表の答辞

〈 映像を見ながらの説明 〉
.....

これから災害支援しろネットワークで活動しながら釧路もいつこうなるか分かりませんので、災害に強い街づくりと子ども達を育てていきたいと思っております。ありがとうございました。

【謝辞】 加納会長



山本さん、吉田さんありがとうございます。
実際に行かれた大変な思いというものが、私たちにも十分伝わりました。大変感動しました。
これからも輪を広げて頑張っていただきたいし、我々もそこで何ができるかということを見聞自
答しながらやっていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

《例会運営委員会 大場委員長》

11月21日	在籍数	30名	出席免除者	6名	出席義務者	24名	「編集:真岩会員」
	名誉会員	1名	出席者	22名	欠席者	8名	出席率 73.3%

会報委員長: 金田 剛 副委員長: 中川 陽市
委員: 櫻田 美香 真岩 勝司 大場 恵治 小泉 和史